

「銀のカギ語」資料

(センター～中堅大レベル)

目次

- abundant について。 「abundant と abandon の覚え方」
- aspire について。 「語源～spir」
- complex について。
- contradict について。 「語源～ contra / counter」
- diameter について。 「語源～meter」
- disaster について。 「語源～aster /astro」
- export について。
- fee について。 「いろいろな『金・料金』」
- flatter と flutter / stationary と stationery について。
- forecast について。 「語源～for(e)」
- hydrogen について。
- institute について。
- magnitude について。 「語源～magni」
- misunderstand について。 「語源～mis/mal(e)」
- mythology について。 「語源～(o)logy」
- oppress について。 「語源～press」
- outstanding について。 「語源～out」
- phase について。
- predict について。 「語源～ pre / post」 「語源～dic(t)」
- project について。
- rear について。
- submit について。 「語源～mit」
- suicide について。 「語源～ cide」
- toxic について。
- transmit について。 「語源～tran(s)」

●vanish について。

「語源～va」

●vigor について。

「語源～viv / vit」

このレベルでおさえておきたいその他の語

1. dispute
2. province
3. migrate
4. transition
5. intuition
6. implement
7. draft
8. epidemic
9. comprise
10. troop
11. cortex
12. bare
13. ambiguous 「語源～ambi」
14. transaction
15. timber
16. spouse
17. weave
18. primate
19. clear-cut

●abundant について。

abundant と abandon

abundant(豊かな) と abandon(捨てる、あきらめる) は、品詞も意味も全く違うが、つづりが似ているだけに区別がしにくい。そこで簡単なイメージを使った両者の区別の仕方を教えよう。

①abundant

abundant の u(ユー) と「ゆたかな」の「ユ」を(同じユつながりになるのを)ひっきりなりにしてこっちは覚える。

②abandon

abandon の a と「あきらめる」の「ア」を(同じアつながりになりになるのを)ひっきりなりにしてこっちは覚える。

この綴り字の違いをヒントにした覚え方は wonder(驚く・不思議に思う) と wander(歩き回る) の区別にも使える。wonder の o と「おどろく、不思議におもう」の「オ」、wander の a と「あるき回る」の「ア」をそれぞれ「オつながり」「アつながり」になるところをヒントにして覚えるといい。

(ex) I wonder (that) he did not get angry to hear the story.

その話を聞いて彼が怒らなかったのは不思議だ

The lost girl wandered through the woods.

その迷子の女の子は森の中をさまよった

※wonder は名詞で「驚異、驚き、驚くべきこと」という意味もある。他に

①No wonder S+V ~: ~なのも無理はない、当然だ

②I wonder if [whether] S+V ~: ~かしら(と思う)

③I wonder if you would [could] do [do] ~: ~していただけですかなどの語法がある。

●aspire について。

語源~spir

spir は「息づく」を表す語幹。「呼吸」が原義。生命力の根源は息の中に

あると考えられていた。aspire の a は「(対象に)向かって」という意味。つまり aspire は、

「対象に向かって(それを求めて)ハアハアと息をする → ~を熱望する」

となるのだ。aspire 以外で spir を含む語をいくつかあげてみよう。

spirit	spir+it[名詞語尾]	→ 呼吸 → 貴重なもの	⇨ 精神、靈魂、気分
inspire	in(中)+spir+e	→ (神が)息を吹き込む	⇨ 靈感を与える
expire	ex(外)+pir+e	→ 息を出し切る(こと切れる)	⇨ ①息を吐き出す ②期限が切れる 満期になる
respire	re(再び)+spir+e	→ 繰り返し息をする	⇨ 呼吸する
perspire	per(通して)+spir+e	→ 皮膚を通して息をする	⇨ 汗をかく
conspire	ccn(-一緒に)+spir+e	→ -一緒に息をする	⇨ ①共謀する 陰謀を企む ②協力する
aspire	a(=ad)+spir+e	→ 対象に向かって息をする	⇨ 熱望する

●complex について。

complex には「複雑(な集合)体、総合施設」という意味もあるが、これは「シネコン」から類推できる。シネコンとはシネマコンプレックス(a cinema complex)の略で、ショッピングセンターなどに併設された、複数のスクリーン持つ複合型映画館のことだ。

●contradict について。

語源～ contra / counter

contra / counter は「逆に(の)」「反対の(対立して)」を表す接頭辞。これを含む語の例をいくつか挙げてみよう。

contrast contra+st(立つ) → 反対に立つ ⇨ 対比[させる・する]

counteract	counter+act(作用する)	→ 反対に作用する	⇨ ①(反作用して)～を和らげる ②～を阻止(妨害)する
counterattack	counter+attack(攻撃)	→ 反対に攻撃する	⇨ 反撃、逆襲
counterexample	counter+example(例)	→ 反対の例	⇨ 反例、反証

counter には「相互の、対応する、匹敵する、相当する」という意味もある。

counterpart	counter+part(側・もの)	→ 相互補完的なもの 相当するもの	⇨ (特に役割[機能]等が)よく似たもの (対応する2つのもののうちの)一方
-------------	--------------------	----------------------	---

●diameter について。

語源～meter

meter という接尾辞は、以下の2つの意味を表す。

※「距離の単位」を表す場合、アクセントは meter の2つ前の音節に (diameterだけが例外)、「計器」を表す場合は直前の音節にくる。

(1) 「距離の単位」

centimeter centi(百分の1)+meter →100分の1メートル ⇨ 1センチ

※1セントとは「100分の1ドル」というのが元々の意味。

kilometer kilo(千倍)+meter →1000メートル ⇨ 1キロ

(2) 「計器」

barometer baro(気圧)+meter →気圧を計る計器 ⇨ 気圧計

altimeter alti(高さ)+meter →高さを計る計器 ⇨ 高度計

thermometer thermo(熱・温度)+meter →熱(温度)を計る計器 ⇨ 温度計

※therm(o)が「熱」を表すことから以下も連想がつく。

thermochemistry thermo+chemistry(化学) ⇨ 熱化学

thermostat thermo+stat(安全装置) ⇨ 温度自動調整器

●disaster について。

語源～aster /astro

aster /astro は「星」を表す語幹。たとえば asteroid は「小惑星」のこと。
この語幹を持つ語の例をいくつか挙げてみよう

astrology astro+logy(～学) → 星の学問 ⇨ 占星術

astronomy astro+nom(y)(～学) → 星の学問 ⇨ 天文学

※astrology と astronomy の区別は「アストロロジィ」の「ロ」と
(占いで用いる)「タロットカード」の「ロ」が同じ「ろ」つながりになるのを引っ掛かりにするといひ。

astronaut astro+naut(人) → 星に行く人 ⇨ 宇宙飛行士

astronomer astro+nom(y)(～学)+er(人) → 星を学ぶ人 ⇨ 天文学者

※nom(y) が「学問」を表すことから以下も連想がつく。

agronomy agro(農業)+nom(y) → 農業の学問 ⇨ 農業(経済)学

●export について。

port の意味を知っておくと portable は「運ぶ(port)+できる(able) → 持ち運びできる」。porter は「荷物を運ぶ人」と類推ができるようになる。

●fee について。

「金・料金」

いろいろな「金・料金」を表す語をまとめてみよう。

①charge : (サービスに対する) 料金、手数料、使用料

- ②cost : 費用、原価
 ※priceは商品等につける値段であるのに対し、costは生産・入手・維持などのために実際に支払う費用。
- ③debt : 借金
- ④fare : (交通機関の) 運賃
- ⑤fee : 1.入場料、入学金(=admission fee)
 2.授業料(=school fee)
 3.(弁護士、医者等への)謝礼
- ⑥fine : 罰金
- ⑦postage : 郵便料金
- ⑧price : (物の) 価格
- ⑨rate : 光熱費や電話代等 =bill
- ⑩interest : 利子、利息
- ⑪tax : 税金
- ⑫toll : (道路等の)通行料、使用料
- ⑬due : 1.[one's due] 当然支払われる[与えられる]べきもの
 (ex) He finally has received his due.
 彼はついに当然の報いを受けた
- 2.[dues] 会費、使用料、手数料、税、料金、賦課金
 (ex) club dues クラブの会費
 membership dues 会費
- ⑭fund:基金

●flatter と flutter / stationary と stationery について。

flatter と flutter / stationary と stationery

fl- のイメージが理解できても flatter(お世辞)と flutter(ひらひら飛ぶ)は意味の区別がつきにくい。これを簡単に記憶する方法を紹介しよう。
 flatter と flutter の覚え方はつづりの違いを利用するといいい。flatter の

a から「a → (ローマ字の)ア → 甘い言葉 → お世辞」とつなげる。flutter の u から「u → (ローマ字の)ウ → ウジ虫 → 虫 → 蝶(ちょう) → ひらひら飛ぶ」。

これは staticnery(文房具) と stationary(静止した) の覚え方にも利用できる。staticnery の e から「e → (ローマ字の)エ → エンピツ → 文房具」とつなげる。これができれば(片方が覚えられたら)、もう一方(stationary) の方は、stay(留まっている)の類語なので意味は連想しやすいはず。ちなみに「静止衛星」は a stationary satellite と言う。

●forecast について。

語源~for(e)

for(e) は「前・先(の・に)」を表す接頭辞。forecast 以外でこれを用いた語の例をいくつか挙げてみよう

forehead	fore+head(頭)	→ 頭の前	⇨ 額
forefinger	fore+finger(指)	→ 前を指す指	⇨ 人さし指
foretell	fore+tell(言う)	→ 前もって言う	⇨ 予言する
foresee	fore+see(見る)	→ 前もって見る	⇨ 予知する
foremost	fore+most(1番の)	→ 1番前	⇨ 真っ先の

●hydrogen について。

oxygen は「酸素」。oxy が「酸」を意味するのは「オキシドール」から類推しよう。オキシドールとは「過酸化水素の水溶液」。gen はやはり「素」。このように類推できるようになると allergen の暗記にも役立つ。これは(カタカナ英語の)「アレルゲン」が同じ意味で用いるのでわかりやすいのだが、アレルゲンとは「アレルギーを引き起こす原因物質」のこと。やはり gen は「素、源」だ。発音は[ア-ジ-ン]なので注意。ちな

み「アレルギー」は allergy という。発音は[アラージ]。

●institute について。

動詞の institute には「(人を役職に)任命する」という意味もあるが、これも「人がある組織の中(in)に役職として立てる」ことだ。

※stitute は「立つ[立っている、立てる]」という意味の語幹。

また institute は名詞として「(学術・芸術・教育などの)会、学会、協会、会館、研究所」「(理工系の)専門学校、(工科)大学」という意味もある。「協会、学会、研究所」等も、その分野の中に立てられたものと考えると理解しやすい。

●magnitude について。

語源～magni

magni- は「大きい、偉大な」という意味の語幹。magnitude は「(地震などの)大きさ」のこと(「重要性」という意味もある)。magnify は(-fy は「～にする、～化する」という意味の接尾辞なので)「大きくする、拡大する、誇張する」という意味になる。そうすると magnificent は「大きくて(magni)+十分な(ficent = sufficient) → 壮大な、素晴らしい」となる。

●misunderstand について。

語源～mis/mal(e)

mis / mal(e) は「悪い・間違っって・否定的な・不完全な・不良の」を表す接頭辞。伝染病の「マラリア(malaria)」も「悪い(mal)+空気(aria=air) → 悪い空気によって感染する病気」が語源(昔は蚊によって感染することがわかっていなかった)。

misunderstand	mis+understand (理解する)	→ 間違って理解する	⇨ 誤解する
mistake	mis+take (取る)	→ 間違って取り込む	⇨ 間違える
misread	mis+read (読む)	→ 間違って読む	⇨ 読み違える
mislead	mis+lead (導く)	→ 間違って導く	⇨ ①(人を)間違った方向に導く ②(人を)惑わす、欺く
mischievous	mis+chief (頭・端・終わり)	→ 間違った結末になること	⇨ いたずら
miscarriage	mis+carriage (運ぶ)	→ 間違って運ぶ	⇨ ①失敗 ②流産
malice	mal+ice (事)	→ 悪い事	⇨ ①悪意 ②敵意
malnutrition	mal+nutrition (栄養)	→ 栄養が悪い	⇨ 栄養失調
malevolent	mal+vol (意志)+ent [形容詞語尾]	→ 悪い意志の	⇨ 悪意のある
maltreat	mal+treat (扱う)	→ 間違って扱う	⇨ 虐待する
malcontent	mal+content (満足した)	→ 満足していない	⇨ 不満足

●mythology について。

語源～(o)logy

(o)logy は「学問」を表す語幹と言ったが、いくつか具体例を挙げておこう。

biology	bio(生命)+logy	→ 生命の学問	⇨ 生物学
※bioが「生物・生命 =life」を表すことから、以下も連想がつく。			
biochemistry	bio+chemistry(化学)		⇨ 生(命)化学
biography	bio+graphy(記述したもの)		⇨ 伝記
bioelectronics	bio+electronics(電子工学)		⇨ 生体電子工学
psychology	psycho(精神)+logy	→ 精神の学問	⇨ 心理学
anthropology	anthropo(人類)+logy	→ 人類の学問	⇨ 人類学
ecology	eco(環境)+logy	→ 環境の学問	⇨ ①生態学 ②環境保護
sociology	socio(社会)+logy	→ 社会の学問	⇨ 社会学

●oppress について。

語源～press

press は「押す」「圧を加える」という意味の語幹。いろいろな press のつく語を一気におさえてしまおう。

pressure	press+ure [名詞語尾]	→ 押すこと	⇨ 圧力
impress	im(中)+press	→ 心の中に(跡が残るように)押し付ける	⇨ 印象づける
express	ex(外)+press	→ (気持ち等を)外へ押し出す	⇨ 表現する
		→ (人を)外に押し出すもの	⇨ 急行列車(バス)
depress	de(下へ)+press	→ (気分を)下へ押す	⇨ 落胆させる
suppress	sup(下へ)+press	→ 下へ押す(押さえ込む)	⇨ 鎮圧する
compress	com(-一緒に)+press	→ 一緒に押し込む	⇨ 圧縮する
oppress	op(=ob)+press	→ 反対して押す	⇨ 圧迫する

●outstanding について。

語源～out

接頭辞の out は「外(側)に・へ」「～より優れて(超えて)」、2つの意味を持つ。outcome の out は前者で「外に(out)+出てきたもの(come) → 結果」となる。output も「生産高」「力を外に出す」ことであり前者タイプ。outstanding や cutnumber の out は後者で「～より優れて(out)+立ってい

dictator	dictat(言う、命令する)+or(人)	→ 命令する人	⇨ 独裁者
diction	dict+ion[名詞語尾]	→ 言うこと	⇨ 言い回し、語法
dictionary	dict+ion(名詞)+ary[名詞語尾]	→ 言葉を収納しておく所	⇨ 辞書
benediction	bene(良い)+dict+ion[名詞語尾]	→ 良い言葉を述べること	⇨ 祝福
predict	pre(前もって)+dict	→ 前もって言う	⇨ 予言する
contradict	contra(反対の・して)+dict	→ 反対して言う	⇨ 矛盾する

●project について。

project は動詞として「①～を投影する、映写する ②～を予測する」という意味もあるが、①については(カタカナ英語の)「プロジェクター」から類推できる。プロジェクター(projector)とは、画像や映像を大型スクリーンなどに投影して映写する装置だ。

●rear について。

rear が「後ろ(の)」という意味(の形容詞・名詞)になる場合は、「リア」が(カタカナ英語で)同じ意味で用いるのでわかりやすい。

(ex) リアウィンドウ

(和製英語だが)「リヤカー」とは、自転車の後ろに連結して荷を運ぶ車ということでそう名付けられた。

(ex) They attacked the enemy from the rear. 彼らは背後から敵を攻撃した

●submit について。

語源～mit

このように mit(t) や mis(s) は「送る・置く」という意味の語幹。submit 以外でこれを含む語の例を挙げてみよう。

mission	miss+ion[名詞語尾]	→ (ある使命をもって)送られること	⇨ 使節
dismiss	dis(分散)+miss	→ 分散するように送り出す	⇨ 解散させる
transmit	trans(別の場所へ)+mit	→ 別の場所へ送る	⇨ 伝達する、伝える、送る
admit	ad(方向)+mit	→ ~の方へ送る	⇨ 入れる、認める
commit	com(-一緒に)+mit	→ -一緒に送り込む	⇨ ①託す ②(犯罪などを)犯す
emit	e(=ex)+mit	→ 外へ送る(置く)	⇨ (臭い・熱・光・音等)を放出する
omit	o(=cb)+mit	→ 反対方向に送る(戻す)	⇨ 省略する
permit	per(=through)+mit	→ 通して送る(通過させる)	⇨ 許可する

●suicide について。

語源～ cide

-cide は「…殺し」という意味の名詞を作る。insecticide は「殺虫剤」。germicide は「殺菌剤」。germ は「菌」。herbicide は「除草剤」。herb は「草」(「ハーブ」はカタカナ英語にもなっている)。
infanticide は「幼児殺し」。infant は「幼児」。pesticide も「殺虫剤」。pest は「害虫(獣)」。suicide は「自殺」。sui は「自分(身)」。homicide は「殺人」。homi は「人」では parricide は? 「親殺し」。parri = parent。

●toxic について。

「デトックス」からも類推できる。デトックス(detoxification)とは「解毒、毒出し」のこと。「除去(de)+毒(tox) → 解毒、毒出し」となる。つまり tox は「毒」という意味。-ic は「～の性質の」を表す形容詞語尾。「毒」には poison もあるが、こちらでも「ポイズン」「ポワゾン」でおなじみ。形容詞形は poisonous で「有毒な」。これ

は toxic の同意表現。

(ex) Toxic substances were found in groundwater and the residents got panics.
有毒物質が地下水から発見され、住民たちはパニックになった

●transmit について。

語源～tran(s)

tran(s)は以下の2つの意味を持つ語幹。

- ①([横断(する)]というイメージから)「越えて」「横切って」「貫いて」「通って」「他の側へ・に」「別の場所[状態]へ・に」
- ②([完全なる]変化)というイメージから)「完全に」「すっかり(別の状態に)」

以下に具体例を挙げてみよう。

transceiver	trans+ceiv(受け取る)+er[名詞語尾]	→ 別の場所で(声を)受け取るもの	⇨ トランシーバー
translate	trans+late(運ぶ)	→ 別の場所へ運ぶ	⇨ 翻訳する
transplant	trans+plant(植える)	→ 別の場所へ植える	⇨ 移植する
trespass	tres+pass(通過する)	→ 横切って通過する	⇨ 侵入する
transparent	trans+par(現れる・見えてくる)+ent[形容詞語尾]	→ 貫いて現れる、見えてくる	⇨ 透明な
transmit	trans+mit(送る)	→ 別の場所へ送る	⇨ 送る、伝える
transcend	trans(越えて)+send(登る)		⇨ ～を越える、～に勝る
transcribe	tran(～の向こう側に)+scribe(書く)	→ ～の向こう側に書く 別の場所に書く	⇨ ①書き写す ②翻訳する
transfer	trans(別の場所へ、越えて)+fer(運ぶ)	→ 別の場所に運ぶ	⇨ 移動させる、移す
transform	trans(すっかり別の状態に)+form(形作る)	→ 形を変える	⇨ 変形(変質)させる 変換する
transient	trans(越えて)+ient(行く=going)		⇨ 一時的な、つかの間の
transit	trans(別の場所へ、越えて)+it(行く)	→ 別の場所に行く	⇨ ①通行、通過(する) ②流通 ③別便への乗り換え

④通路

transfuse trans(別の場所へ)+fuse(注ぐ・-つにする) → (血を)別の場所に注ぐ ⇨ 輸血する
(注いで-つにする)

※fuse の名詞形の fusion は「融合」という意味。nuclear fusion は「核融合」。音楽で fusion と言えば、例えばジャズとロックなど、異なる音楽形式が混合(融合)し合うことを差す。

●vanish について。

語源～va

va がつく語は「空(から)、無い」という意味が多い。たとえば vacant は「空(から)の、空いている」。vacuum は「真空、空虚」。vacation は「休暇(←仕事場を空にすること)」。vanish は「消える(←空になるということ)」。vanity は「虚栄心(←中身は空ということ)、空虚」。void も「空虚な、～を欠いている」という意味でおなじ仲間になる。be void of A で「Aを欠いている、Aがない」。be lacking in A で言い換えられる。devoid も void と意味はほぼ同じで「～を欠いている、～がない」という意味。de は「分離」を表す接頭辞。それから vanity の形容詞形が vain。in vain で「無駄な、無駄に、むなしく」という意味になり頻出。

(ex) It was in vain that they tried to rescue him.

彼を救助しようとしたが無駄だった

avoid は「避ける」だが「a(=ab:～から離れて)+void(空にする) → 今いる場所から離れて空にする → 逃れる、避ける、近寄らない」となる。

●vigor について。

語源～viv / vit

viv や vit は「生存」を表す語幹。これらを用いた語の例をいくつか挙げてみよう。

survive	sur(越えて)+viv+e	→ 越えて生きる	⇨ 長生きする
revive	re(再び)+viv+e	→ 再び生きる	⇨ 生き返る
vivid	viv+id[形容詞語尾]	→ 生き生きした	⇨ 鮮やかな
vital	vit+al[形容詞語尾]	→ 生き生きした	⇨ 活気のある
vitality	vit+ality[名詞語尾]	→ 生きる力	⇨ 生命力
vitamin	vit+aim(アミノ酸)	→ 生きるためのアミノ酸	⇨ ビタミン

④ ビタミンはアミノ酸の派生物と考えられていた。

このレベルでおさえておきたいその他の語

1. dispute

ディスプユート 「①議論する ②～に異議を唱える」(動) 「議論、論争、口論」(名)

(ex) We disputed about[over] the foreign policy of the government.

我々は政府の外交政策について議論した

2. province

プロヴィンス 「①州、省 ②(昔の日本の)国 ③[the province]領域、分野 ④[the provinces]地方、田舎」(名)

(ex) the Province of Musashi 武蔵の国

the Province of Quebec ケベック州

3. migrate

ミグレイト 「移住する、(鳥などが)移動する」(動)

(ex) I migrated from the Southern to the Northern States.

南部の州から北部の州へ移住した

(名)migration:①移住 ②(鳥などの)移動

4. transition

トランジション 「①移り変わり ②過渡期」(名)

(ex) a period of transition 過渡期

=a transition period

a transition from a feudal to a modern society

封建社会から近代社会への移行

(類)transit:①通過[行]、横断 ②運送

5.intuition

インテューイション 「直観(力)、直感」(名)

(ex) I realized it by intuition 直観的に私はそれを悟った

6.implement

インプラメント 「(計画・契約・法律などを)実行する」(動)
「①道具・用具・器具 ②[implements] 家具一式」(名)

(ex) Once in office, the politician failed to implement his campaign promises.

ひとたび公職に就くと、その政治家は公約を果たさなかった

7.draft

ドラフト 「下書き、草案、設計図」(名) 「草案を書く、下書きする」(動)

(ex) He made a draft for a speech in the room.

彼はその部屋で演説の草案を作った

 名詞で「すきま風」という意味もある。

8.epidemic

エピデミック 「流行病、蔓延」(名)

(ex) There is an epidemic of flu reported.
インフルエンザの流行が報道されている

9. comprise

コンプライズ 「～から成る、構成する」(動)

(ex) This book comprises [=is comprised of] eight chapters.
この本は8章から成る

(同) consist of, be composed [compounded] of

10. troop

トゥープ 「①[troops]軍隊 ②集団」(名)

(ex) The general sent troops to the front. 将軍は軍隊を前線へ送った

11. cortex

コルクス 「①皮質 ②樹皮」(名)

(ex) cerebral cortex 大脳皮質

12. bare

バー 「裸の、ありのままの」(形) 「①裸にする ②暴露する」(同)

(ex) I walked in [with] bare feet on the beach. 砂浜を裸足で歩いた

(語) 比喩的に「①(土地が)草木の生えていない ②がらんとした ③ありのままの、赤裸々な ④かろうじての」という意味でも用いられる。

(副)barely:かろうじて

13. ambiguous

アンビギアス 「あいまいな、どっちつかずの」(形)

(ex) The wording of the contract was very ambiguous.

その契約書の表現は非常にあいまいだった

語源～ambi

ambi は「両方(の)、二重(の) ②周囲」を表す接頭辞。これを含む語の例をいくつか挙げてみよう。

ambidexterity	ambi+dexterity(手先の器用さ)	→ 両方の手先の器用さ	⇨ 両利き
ambiguous	ambi+igucus(導いた)	→ 両方に導くような	⇨ 曖昧な、不確かな
ambivalent	ambi+valent(等価の)	→ 両方に価値を置く	⇨ 矛盾した、相反する
amphibian	amphi+bian[名詞語尾・形容詞語尾]	→ 両方の性質を持つ(もの)	⇨ 両生類(の)
ambition	ambi+tion[名詞語尾]	→ (票を求めて)周囲を歩き回ること	
		→ 名声を得ようとする事	⇨ 野心

14. transaction

トランザクション 「①(商)取引 ②事務の処理」(名)

(ex) a business transaction 商取引

the transaction of a deal 取引きの処理

15. timber

ティンバー 「木材」(名)

(ex) Japan imports most of its timber. 日本は木材の大部分を輸入している

16. spouse

スパウズ 「配偶者」(名)

(ex) The Japanese law requires that spouses use one name.

日本の法律は夫婦は単一の姓を使うことを義務付けている

17. weave

ウイヴ 「①～を織る、編む ②(クモが)巣を張る」(動)

(ex) My father wove straw into hats. 父はわらを編んで帽子を作った

(語) 比喩的に「～を入念に作りあげる、組み立てる」という意味にもなる。

(活) weave - wove - woven

18. primate

プライメイト 「霊長類(の動物)」(名)

(ex) Primates include monkeys, apes and humans.

霊長類には、サル、類人猿、そして人間が含まれる

19. clear-cut

クリアカット 「(輪郭などが)はっきりした、くっきりした、きちん整った」(形)

⑧ 「きれいにきちんと (clear)+カットされた (cut) → (輪郭などが) はっきりした、きちんと整った」となる。比喩的に「(考えなどが) はっきりした、明快な、わかりやすい」という意味にもなる。また「きれいに刈り取られた → (木などが) 全部切り倒された」という意味にもなる。この意味では(「全て切り倒す」という) 動詞としても用いられる。

(ex) Everybody was convinced of her clear-cut explanation.

みんなが彼女の明快な説明に納得した